

「コーポレートガバナンス・オブ・ザ・イヤー2019 経済産業大臣賞」を受賞

資生堂は、一般社団法人 日本取締役協会が主催する「コーポレートガバナンス・オブ・ザ・イヤー2019 経済産業大臣賞」を受賞しました。「コーポレートガバナンス・オブ・ザ・イヤー」は、コーポレートガバナンスを活用して中長期的に健全な成長を続けている企業を後押しするため、同協会が経済産業省などの後援のもと、2015年から実施しているものです。「経済産業大臣賞」は、ガバナンスの根幹である社長 CEO の選任・後継者計画について、独立した指名委員会を中心とした実効的な監督を行い、成果を上げていると認められる企業が選定されるものです。

2月25日(火)に表彰式が実施され、経済産業副大臣の牧原秀樹氏より資生堂の代表取締役 社長 兼 CEO の魚谷雅彦に記念のトロフィーが授与されました。



【授賞式の様子】

「経済産業大臣賞」選定理由

主な評価点は下記の通りです。

1. 業務執行体制からの独立性を重視して、社外役員のみで社長の評価を行う CEO レビュー会議を設置し、同会議が役員指名諮問委員会とともに社長の指名・後継者計画に関わっている。さらに、その旨をコーポレートガバナンス報告書、統合報告書等において開示しているなど、社長の指名・後継者計画に関するガバナンスの体制が適切に構築され、プロセスの透明性及び客観性が高い。
2. 2014年に現社長を指名した際も、独立社外取締役が中心となり、会社の置かれた競争環境を踏まえて、社長候補者の適格性を客観的に検討し、社外人材からの登用を決定したことに加え、その後も毎年度の業績評価に基づき社長の再任の可否に関する審議・検討を実施しているなど、社長の指名・後継者計画に関する仕組みが実効的に運用されている。
3. 現社長就任後、独立社外役員との情報共有を徹底することで信任を得つつリーダーシップが発揮された結果、TSR(株主総利回り)が業種平均を大きく上回っていると同時に、ROE、ROA等の財務パフォーマンスが上昇傾向にあるなど、高い業績をあげている。

資生堂のコーポレートガバナンスについて

資生堂グループは、コーポレートガバナンスを「企業理念の達成を通じ、持続的な成長を実現するための基盤」と位置づけています。コーポレートガバナンスの実践・強化により経営の透明性・公正性・迅速性の維持・向上を図り、「お客さま」「取引先」「社員」「株主」「社会・地球」という全てのステークホルダーとの対話を通じて、中長期的な企業価値および株主価値の最大化に努めます。あわせて、社会の公器としての責任を果たし、各ステークホルダーへの価値の分配の最適化を目指します。